

ホスピス・緩和ケアフォーラム 2015 in つくば

6月7日(日)つくば国際会議場大ホールで、同会場で午前中に開催された日本死の臨床研究会関東甲信越支部大会と連携し、午後から市民公開講座として「ホスピス・緩和ケアフォーラム 2015 in つくば」が開催されました。徳永 進先生のユーモア溢れる講演と、「死ぬのがこわい」と題したトークショーが持たれました。協力団体のつくばセントラル病院と特別ゲスト土浦日大高校の吹奏楽演奏に感謝いたします。

参加者 356名



土浦日大高校吹奏楽部の演奏



徳永 進先生による講演



トークショー「死ぬのがこわい」

“ホスピス・緩和ケアフォーラム 2015 in つくば —死ぬのはこわい!? —” に参加して

土浦協同病院 緩和ケア認定看護師 松本 俊子



平成 27 年 6 月 7 日につくば国際会議場で開催された「ホスピス・緩和ケアフォーラム 2015 in つくば」に参加しました。

同会場でこの日の午前に「日本死の臨床研究会第22回関東甲信越支部大会 in 茨城」が「アドバンス・ケア・プランニング：これからのことについて話し合う」の大会テーマのもとで開催され、患者さんと死をふまえた話し合いをする臨床での難しさの現状とその対応策について学びを深める機会がありました。これに続いて、市民公開講座として「死ぬの

はこわい!？」のテーマでこのフォーラムとなりました。

オープニングは重いテーマを和らげるような土浦日大高校吹奏楽部のミニコンサートで幕を開けました。高校生の息のあった演奏とジブリやディズニー映画音楽のスペシャルメドレーに癒され、大きな拍手とともに第1部(講演)に入りました。医師であり作家の徳永 進先生(野の花診療所所長)のお話は、先生の日常診療を中心に様々な個性も持った患者さんやご家族、医療スタッフ、地域の人々とのふれあいを通して、先生のその時々のお気持ちの揺れ動きをユーモアを交えて語られ、言葉の端々に先生の温かい人柄が感じられました。

先生の患者さんのありのままを飄々と

受け止めるぶれない姿勢があるからこそ死を語ることをタブー視しない実践ができるのだろうと感じました。

講演に続き第2部は徳永先生、志真先生、木澤先生、栗原さん(臨床心理士)によるトークショーでした。トークのきっかけとして、平安歌人である在原業平や西行法師の辞世の句を取り上げたのはユニークな試みだと思いました。

先生方の経験談をお聞きして死のとりえ方、向き合い方は本当に様々であり、その多様性を柔軟に受け止めていくことが大切であると思いました。人は死ぬ瞬間まで生きる(成長できる)存在であるということがあらためて実感できる元気をもらえたフォーラムでした。

2015 年度 ホスピス・緩和ケアボランティア研修会

「今あらためて知りたいこと 感じること ホスピスボランティアの思い」



本年度も昨年に続き、6月に奈良、7月に熊本と、2回の開催となりました。協力いただきましたイエズスの聖心病院のボランティアの皆様へ感謝いたします。なお、両日の講演内容は、ホスピス財団ホームページでも公開予定です。



奈良会場

6月12日（金）奈良県立文化会館ホール

■講演

寄りそうって？ 聴くこと語ることの本当の意味

佐藤 泰子氏（京都大学大学院 人間・環境学 博士課程修了）

■活動発表

「グループふれ愛」の活動報告

塚野 加代氏（四国がんセンター「グループふれ愛」代表）

参加者 105名

熊本会場

7月23日（木）熊本市国際交流会館

■講演

輝いて今を生きる 幸せな最期を迎えさせるために

山岡 憲夫氏（やまおか在宅クリニック院長）

■活動報告

「淀キリボランティア史と現況」 宇野喜代子氏（淀川キリスト教病院ボランティア）

「みこころボランティアの活動」 永田 貴子氏（イエズスの聖心ボランティア）

参加者 66名

緩和ケアとホスピスボランティア

日本病院ボランティア協会 理事 中野貴美子



ホスピス病棟で活動するボランティアは、医療という現場では一番患者さんが身体的に苦しい時、何も出来ないどころか、そっと離れて医療者が処置するのを遠目で見守るしか出来ません。一時でも安らかな時間を共に持てればボランティア活動をしていて良かったと思うのですが、苦しいジレンマに陥る時もあります。ホスピスボランティアの心の声、胸のうちを知りたい、声

に出してほしいと思い、今年の研修会テーマ「今いちど知りたい 感じたい ホスピスボランティアの思い」を決めました。ホスピスボランティアの気持ちをご理解いただいている講師先生は、改めて寄り添うという言葉の重さを専門研究分野での分析とまた、アニメあり昭和歌謡ありの硬軟織り交ぜた切り口で鮮やかに話しを進めました。ホスピス病棟で冗談を言って大きな声で笑う、このような普通の事をしていいんだよと言われた気がしました。患者さんは特別な存在でなく普通に、人間らしく最期を過ごすことを叶える。この事を改めて考える機会を、悠久の歴史の町奈良で持てたことに感謝したいと思います。ボランティア代表の活動発表はボランティアに対する対応が病院によって様々ですが、誠意を持って続けることで信頼関係を築き、それが患者さんの思いに添うのではとお話でした。参加された方々の熱心な質疑応答で終え、今後はボランティア活動に活かせるようにと願ひまして、いつまでも高揚感が残る研修会でした。

研修会に参加して

日本病院ボランティア協会 理事 永井 律子



外科医であった先生が緩和ケアの在宅ホスピス医になられた経緯のお話から始まりました。

手術をしても助からない患者が沢山いるという事実に向き合っていた先生は、当初病院のホスピス病棟で勤務しておられた時、患者さんの家に帰りたいという気持ちを目の当たりにして自然の流れのように在宅医になりました。患者さんが言われる「死ぬことがつらいのではない、死が分っていて生きているのがつらいのです」また「生きている意味がない、早く死なせてくれ」そんな患者へのケアはスピリチュアルケアといって緩和ケアの神髄である。そして緩和ケアは決して主流ではない、しかし医療の源流である、原点である。恩師の言葉を山岡先生は同じ想いで受け止められておられるそうです。

緩和ケアの治療の様々なこととお話いただきました。

相手のことを考えながら治療をする。スピリチュアルケアの基本は相手の気持ちに寄り添うこと。

患者との信頼関係を作る、患者を一人ぼっちにしないこと。傾聴とは耳を傾けて心で聞く、相手が聴いてもらって自分のことが分かってくれたと感じられるような聴き方をするということです。

花は何故美しいのでしょうか。の問いかけには患者さんの心の変化を挙げて、「本人の気持ちと変わったからです。美し物を美しいと思うあなたの心が美しいのです。心は自がきめる、自分の心で決まるのです。」と話されました。また、がん患者さんに言うてはいけない言葉の一つ「がんばれ」ではなく「よくがんばったね」と言ってあげて下さい。

ホスピスは場所ではないのです。心と体が安らげば家でもいい施設でもいい、どこでもいいのです。それがホスピスである。ボランティアとしてどのようにしたら良いかわからない事や難しい事がまだまだありますが、先生のお話を伺い自然体の気持ちと心で患者さんに接していこうと思いました。在宅医としての使命をもち、覚悟をもって最後までその患者さんを見るという事に徹しておられる姿勢に心からの拍手を送らせて戴きました。

お知らせコーナー

“旅立ちのとき”が出版されました。

旧『旅立ち』が絶版となり、多方面から再販の要望が多く寄せられていましたが、今般『旅立ちのとき・寄りそうあなたへのガイドブック』が新しく制作され、出版の運びとなりました。ホームページでも閲覧可能ですが、ご希望の方には1冊 200円（送料込）で送付いたします。

・・・詳細はホームページをご覧ください。



“旅立ちのとき”出版記念講演会

- 講演「“旅立ちのとき”を支えるケア」
講師：田村恵子氏（京都大学大学院医学研究科教授）
- 日時：2015年11月16日（月） 19:00～20:30
- 場所：サクラファミリア（大阪梅田教会）3階 聖堂
・・・詳細はホームページをご覧ください。



2015年度ソーシャルワーカーのための実践セミナーのご案内

- テーマ：「地域包括ケア時代の緩和ケアを考える」
- 日時：2015年10月25日（日） 10:00～17:00（9:30より受付）
- 会場：松本商工会議所 研修室
- 基調講演：講師 秋月 玲子 先生（厚生労働省健康局がん対策・健康増進課 がん対策推進官）
・・・詳細はホームページをご覧ください。

第7回 グリーフ&ビリーフメントカンファレンス

- 日時：2016年1月30日（日） 時間は未定
- 会場：関西学院大学梅田キャンパス
・・・詳細は近日中にホームページへ掲載予定

メールマガジン“今月のお便り”配信中

10月号を配信中です。毎月、タイムリーな話題や財団事業の案内等をお知らせしています。是非、“今月のお便り”をお読みください。ホームページより簡単に申込みが出来ます。また、バックナンバーも閲覧可能です。

新刊・近刊紹介

人はなぜ、
人生の素晴らしさに
気づかないのか？



柏木哲夫著

(KADOKAWA/中経出版
2015.9刊 650円+税)

本書は、2006年に幻冬舎より出版されたが、絶版となり惜まれていた「人生の実力」を今般、文庫本化されたものである。著者は長年、ホスピス医として2500人を看取ったが、本書にはその経験を通じた人生への洞察が、親しみやすい文体で描かれている。

人は、自らの死を意識したときに初めて、その人の実力が問われると説かれているが、それは詰まるところ、その人がどのような人生を歩んできたかの総括ではないだろうか、そう考えるときに、私たちにあって死を思うことは、如何に今を生きることでないかと教えられるのである。老若男女を問わず、多くの人に薦められる好著である。

こんにちは
ホスピス

石川県済生会金沢病院

外科診療部長・緩和ケア病棟医長

龍澤 泰彦

北陸新幹線開業から半年、石川県は連日多くの観光客でにぎわっています。当院の緩和ケア病棟はその石川県で最初に設立され、今年開設20周年を迎えました。たまたま新幹線開業と同じ日に20周年記念の講演会を開催し、これまでの歴史を振り返るとともに、未来へ向けて気持ちを新たにしたいところでした。

緩和ケア病棟の施設基準に「在宅や外来への円滑な移行を支援する病棟」とあります。当病棟もここ3年間は20～30%の方が自宅へ退院されるようになってきました。また最近では病棟の緩和ケア認定看護師が退院された患者さんのご自宅へ訪問し、退院後の在宅生活のお手伝いもさせていただいています。



遺族会

とは言いながらも、やはり看取りや遺族ケアも重要であることに変わりありません。毎年10月のホスピス緩和ケア週間に合わせて病棟では遺族会（ほっこりサロン）を開催し、多くの方に、涙あり笑いありのほっこりした時間を過ごしていただいています。今年も10月7日、8日の2日間開催を予定しています。

金沢駅の正面には「もてなしドーム」というガラス張りのドームがあります。雨や雪の多い金沢で、駅に降り立った人にそっと傘を差し出す、もてなしの心を表現したものだそうです。ホスピスの語源であるラテン語の Hospitium には「客を厚遇すること」「暖かいもてなし」という意味があります。金沢はその玄関口からおもてなしの精神、ホスピスマインドにあふれていると言ってもいいかもしれません。その金沢で緩和ケア病棟に携わっている私たちも、今後ともホスピスマインドを大切にしていきたいと思っています。



もてなしドーム

ホスピス財団 2015年度事業進捗状況報告 (2015年4月～2016年3月)

1. ホスピス・緩和ケアに関する多施設共同研究（公募3件）…進行中
2. 遺族によるホスピス・緩和ケアの質の評価に関する調査研究【J-HOPE Ⅲ】（第3次調査・第4年度）…進行中
3. 『ホスピス・緩和ケア白書 2016』（研究論文集+データブック）作成・刊行 …進行中
4. 非がん疾患の終末期医療の実態に関する調査（第2年度）…進行中
5. がん診療拠点病院の緩和ケアチームの基準 2015年度版の作成…進行中
6. 意思決定支援をめぐる患者・家族のニーズならびに課題の把握と、効果的な支援方法の検討…進行中
7. ソーシャルワーカーのための緩和ケアスキルアップセミナー（公募）
実施予定日 10月25日（日） 松本商工会議所（松本市）
8. ホスピス・緩和ケアボランティア研修セミナー（公募）
実施：第1回 6月12日（金）於：奈良県立文化会館ホール 参加：105名
実施：第2回 7月23日（木）於：熊本市国際交流会館 参加：66名
9. 第7回、第8回 Whole Person Care ワークショップ
実施：第7回 8月8日（土）於：千里ライフサイエンスホール 参加：13名
実施：第8回 8月22日（土）於：TKP 札幌ビジネスセンター 参加：9名
10. グリーフケア研修セミナー（公募） 実施予定日：1月30日（土）
11. 高齢者介護施設等の看取り教育研修…進行中
12. ホスピス・緩和ケアフォーラム
実施：6月7日（日）於：つくば国際会議場大ホール 参加：356名
13. 『これからのとき』等、事業啓発のための冊子増刷
14. 終末期に関する手引き用の冊子作成
『旅立ちのとき』発行 8月15日
15. Whole Person Care 日本語版発行…進行中
16. 一般広報活動
17. アジア太平洋ホスピスネットワーク（APHN） 関連事業
4月30日（木）～5月3日（日）
第11回アジア太平洋ホスピス会議参加
於：台北国際コンベンションセンター
18. 日・韓・台 第2期 共同研究事業…進行中

寄付者一覧（2015年3月～2015年8月 順不同、敬称略）
 (個人) 匿名 2名
 (団体) 株式会社 三孝社

新規賛助会員（2015年3月～2015年8月 順不同、敬称略）
 (個人) 森 泰士
 鈴木 央
 山下 達美
 山下 美津子
 山下 裕己
 安藤 利夫
 吉村 規男
 匿名 2名

(団体) シャローム株式会社
 社会医療法人 美杉会 男山病院
 ベルランド総合病院
 一般社団法人 京都グリーフケア協会
 株式会社 オレンジライフ

寄付・賛助会員のお願い

私たちの活動は、全て、皆さまからのご寄付と賛助会員の方々の会費に拠っております。どうか私どもの活動の趣旨をご理解いただき、ご寄付・賛助会員のお申し込みを頂けるようお願いいたします。

また、「遺贈」による寄附もぜひご一考下さい。当財団は、三井住友信託銀行と「遺贈による寄付制度」について提携しております。公益法人への遺贈に拠る寄付財産は、原則として**相続税の非課税財産**となります。

上記ご寄附、賛助会員、遺贈に関するお問い合わせは **06-6375-7255** です。

(公財) 日本ホスピス・緩和ケア研究振興財団 2014年度(第15期) 決算の概要

2014年4月1日から2015年3月31日まで (単位：千円)

科 目	2014年度決算
【経常収益】	
①基本財産運用益	3,760
②受取寄付金	41,551
(内訳) 賛助会費収入	25,445
一般寄付金収入	11,106
指定寄付金収入	5,000
③雑収益等	1,438
経常収益計 (A)	46,749
【経常費用】	
①事業運営費	33,605
(内訳) ホスピス・緩和ケアに関する調査・研究事業	17,533
ホスピス・緩和ケア従事者に関する教育事業	9,226
ホスピス・緩和ケアに関する広報事業	5,478
ホスピス・緩和ケアに関する国際交流事業	1,368
②一般管理費	6,138
経常費用計 (B)	39,742
当期経常増減額 (A - B)	7,007

今期は運用益増と大口の寄附が2件あり、黒字決算となりました。ご支援に感謝申し上げます。

編集後記

団塊の世代が大量に死を迎えるという2025年問題が取沙汰されている中、看取り教育の必要性が求められている。今般“人はどのように死んでいくのか”、また、“どのように寄りそえばいいのか”を解説した「旅立ちのとき…寄りそうあなたへのガイドブック」がホスピス財団より発行された。この小冊子が、一般の方々にも広く読まれることを願っております。

一方で、スピリチュアルな悩みに対するケアも大きなテーマである中、今年のホスピス・緩和ケアボランティア研修会では、奈良会場と熊本会場において、佐藤泰子先生、山岡憲夫先生から、人は苦悩の中にあっても、その状態を受け入れることが出来れば、幸せな最期を迎えることが出来ることを学んだ。そして山岡先生が、“ケアの神髄はその人にどれだけ心を込めることができるかである”と語られたことが心に残った。このことは、今ホスピス財団が力を注いでいる Whole Person Care ワークショップの目指すところでもあり、これからもスピリチュアルケアと看取り教育という大切なテーマを追い求めていきたいと思う。

いかにいい仕事をしたかよりも、どれだけ心を込めたかです。

マザー・テレサ